

## 「気付き・考え・行動」する自己決定力の育成をめざして

### 目的

本校児童は、十数年来取り組んできている全校縦割り活動を通して、家庭的な雰囲気の中で学校生活を送っています。しかし、学年に関係なく親しい仲にあるためか、生活上の問題に気付き、解決する力に欠ける傾向が見られます。そこで、これまで取り組んできた縦割り活動のよさを生かして、生活上の問題を集会の場で投げかけ、全体で解決方法を話し合うこととしました。そうすることで、みんなで決めたルールを守ることの大切さに気付いたり上級生としての自覚と責任や下級生として協力的に集団にかかわったりする行動力が身に付くのではないかと考えました。

### 内容

- 具現化の3つの柱
  - (1) 自ら問題に気付くための仕掛けづくり ⇒ 「気付く」
  - (2) 児童会活動と学級活動との連携 ⇒ 「考える」「気付く」
  - (3) 自己存在感を高める評価 ⇒ 「振り返る」「次へつなぐ」
- みんなで考えようシリーズの取組

#### パート1 「休み時間の過ごし方」

##### (1) 劇を通して休み時間の課題に「気付く」



生活アンケートの結果をもとに、休み時間の過ごし方の課題や問題となる行動の理由、危険性について劇を通して全校生に投げかける。



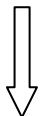
##### (2) ふれあい班で話し合い、原因や危険性を「考える」



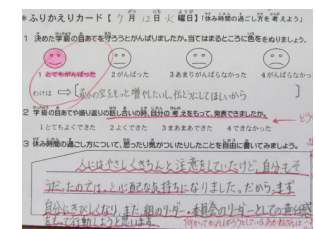
休み時間の過ごし方の課題や問題となる行動の理由や危険性を縦割り班に分かれて話し合い、班の中の意見をまとめ全体の場で発表する。



##### (3) 学級のめあてを発表し、めあて達成に向けて「行動する」



学級にもどり、それぞれの学年の実態や課題について話し合い、学年ごとのめあてを決め実行する。振り返りカードに毎日の様子を記録する。



##### (4) 振り返りカードで取組を「振り返る」



学級のめあてに向け各自がどのように取り組み、結果はどうであったかを自己評価する。それをもとに、学級全体の成果や課題をまとめる。



##### (5) 取り組みの発表会を開いて「次へつなぐ」

全体の場で、めあて達成のために取り組んだことやできるようになったことを発表し合い、努力や成果を認め合って取組の継続に向けて意欲を高める。

### 成果

児童自ら生活上の問題に気付き、解決方法を考えることを通して、1人1人が役割意識をもち協力し合って活動したり解決のために学年の発達段階に応じた取り組みをしたりして、学校生活をよくしている姿が見え始めてきました。

また、相手や場に応じた言葉遣いや目的に適した話し合いの仕方を身に付け、学習や生活に生かす態度も育ってきています。